

P-016

保育施設における父親の支援ニーズ

阿川 勇太¹、谷口 康祐²¹大阪総合保育大学²京都先端科学大学

【背景】

わが国では、父親の育児参画が進んだことで保育施設への参画も増えており、保育所等でも父親のニーズの特性を理解した子育て支援が求められている(岡村ら,2020)。このような背景から、父親の保育施設に対するニーズを把握することは、現代における子育て支援を展開するにあたって重要な課題といえる。

【目的】

保育施設を利用している父親を対象にニーズ調査を行い、父親が保育施設に求める支援を分類する。

【方法】

保育施設を便宜的に抽出し、施設長に同意を得た上で、Webアクセスにより2023年6月1日～12月20日に調査を実施した。アンケートの項目は、事前に保育施設で父親にヒヤリングを行い、32項目5段階評価アンケートを作成した。アンケートで得られた結果を記述統計で示し、その後父親のニーズ項目を因子分析によって分類した。

本調査は大阪総合保育大学倫理審査委員会の承認(承認番号:児保-080)を得て実施した。

【結果】

700人の父親にアンケートを配布し、96人からの回答を得た(回収率13.7%)。父親のニーズの項目については、「日々の保育日誌を簡素化もしくはデジタル化」が最も平均が高く(4.25 ± 0.09)、次いで「子どもの主体性の伸ばし方について学習する機会」(4.18 ± 0.09)であった。アンケートの結果をもとに探索的因子分析を行い、父親のニーズを「学習の機会」「交流の機会」「園との関わりやすさ」「預かり条件の拡大」の4つの因子に分けることができた(RMSEA=0.0532)。4因子では「学習の機会」の平均が最も高かった(3.96 ± 0.09)。

【考察】

本研究では、保育施設における父親の支援ニーズの分類を行った。父親の支援ニーズとしては「学習の機会」が高く、園で行われている保護者支援の中で、我が子のことについて父親も学べるような工夫が必要であると考えられた。ニーズとしては高かったが、因子分析において独自性が高く「日々の保育日誌を簡素化もしくはデジタル化」が脱落した。これは、保育園の準備なども含めた負担感におけるニーズの項目が少なかったためであると考えられる。それらの項目を含め、父親のニーズを今後も検討していくことが必要だろう。また、父親のニーズは父親の特性との関連が考えられることから、父親の特性との関連も今後さらに検討していく必要がある。

P-017

保育所における保育士が感じる「見えづらさ」と課題に関する検討

両角 理恵¹、木村 美佳²、高橋 良子³、眞鍋裕紀子⁴、及川 郁子⁵¹東都大学²四條畷学園短期大学³全国保育園保健師看護師連絡会⁴太陽の門福祉医療センター⁵東京家政大学 家政学部・短期大学部

【目的】

本研究では、保育士が保育中のこどもを通して感じる「見えづらさ」の現象とその改善に向けた課題について検討する。

【方法】

保育園保育士5名を対象に、保育中のこどもと関わる中で見えづらさを感じる場面について半構造化面接によるインタビューを行った。分析方法は、KHcoderを用いてコレスポンデンス分析を行い量的に語りの傾向を捉えた後、抽出された4つの語りの特徴「発達」「生活習慣」「保育所」「家庭」の関連語および研究目的である「見えづらさ」の関連語のコンコーダンスを確認しカテゴリー化を行い質的に分析した。

【結果】

保育士が見えづらさを感じるこどもの様子として、目が合わない、感情がコントロールできないなどの「個人の特性」、友達と関わらない、攻撃的などの「集団の中での特性」、食事の偏り、午睡ができないなどの「生活習慣としての特性」の3つのカテゴリーに分類された。これらの様子に対して、保育士は行動の理由がわからない、気持ちがわからない、感覚がわからないなどの困難感を抱いていた。また、保護者に対しても家庭での様子が捉えられない、こどもの様子が伝わらないなどの困難感を抱いていた。困難感に関連する要因は、保育士、保育所、こども自身、保護者の4つに分類された。経験の浅い保育士ほど、背景の多様性に対応できず悩む、落ち込む、こどもに対して不適切な対応になりがちとなり、経験を積んだ保育士は、こどもを見守りながら予測を立てて試行錯誤を重ね、臨機応変に対応していることが語られていた。要因が捉えにくく、適切な対応方法や見守りを続ける時期の判断に迷う時は、巡回相談など専門職の協力を得ていた。

【考察】

保育士は、集団を大切にしながらも、こどもの持つ能力を最大限に引き出しその子なりの目指すこどもの姿に近づけるよう、個々に合わせて試行錯誤しながらこども達と関わるようにしていると考えられた。しかし、こどもの行動や発達に影響を及ぼす背景や要因の多様性により、支援の方向性が見えづらなことが推察された。今後は、複雑に関係しあう背景を捉えるためのガイドとして、こども、保護者、保育士(保育所)の各視点から発達および生活習慣を具体的にアセスメントできるツールを用いることで、そのこどもの限界や能力を明確にとらえることができ、こどもの力を最大限に引き出す支援につながると考えられた。